

怖くても進む理由

「過去の延長線」を抜け出し、夢中を仕事に変えるクリエイティブラボ

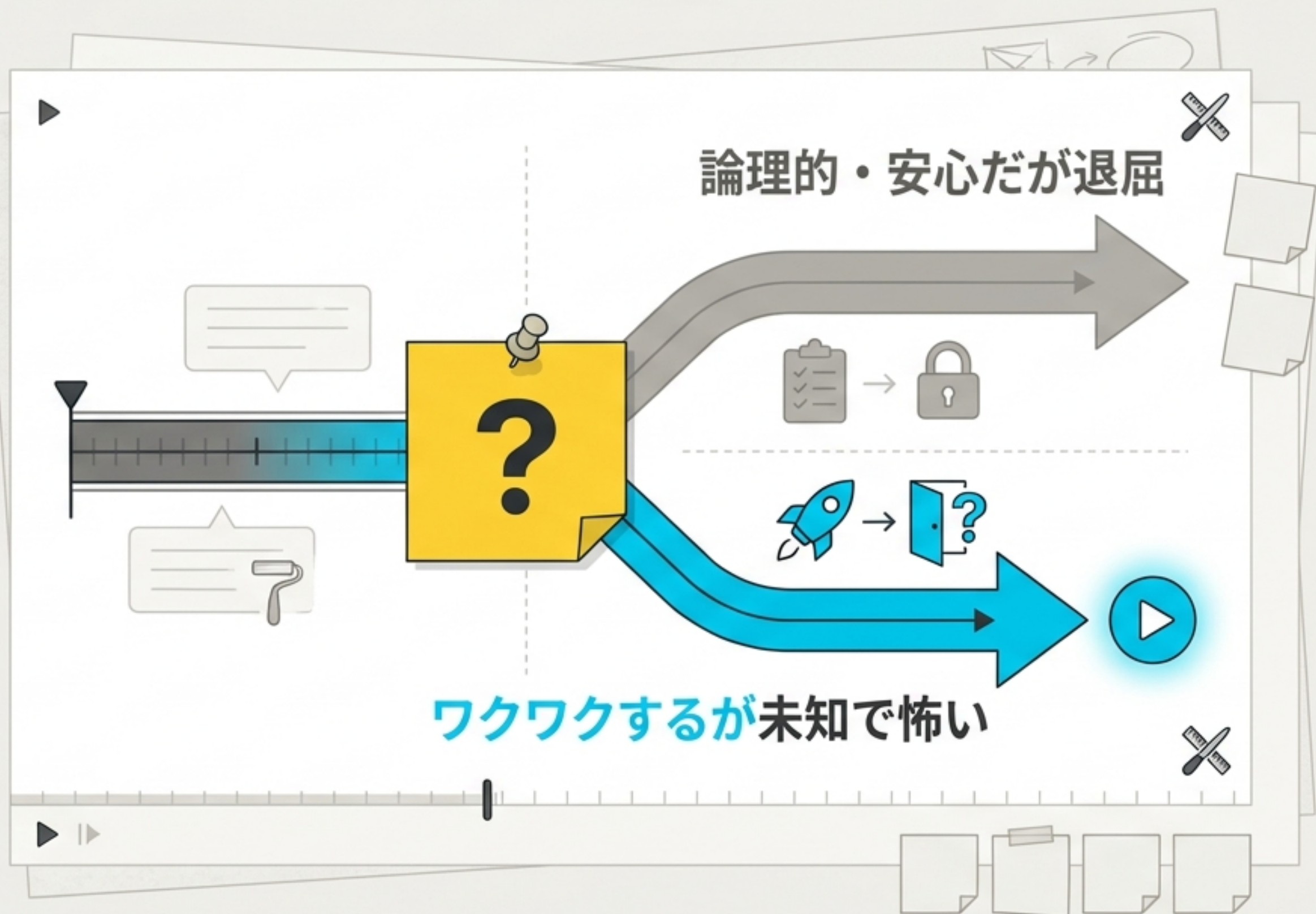
感情と好奇心を羅針盤にするパラダイムシフト

なぜ私たちは、新しい挑戦を前に足がすくむのか？

「これまで積み上げてきた時間や実績を、すべて否定してしまうのではないか」という恐れ。

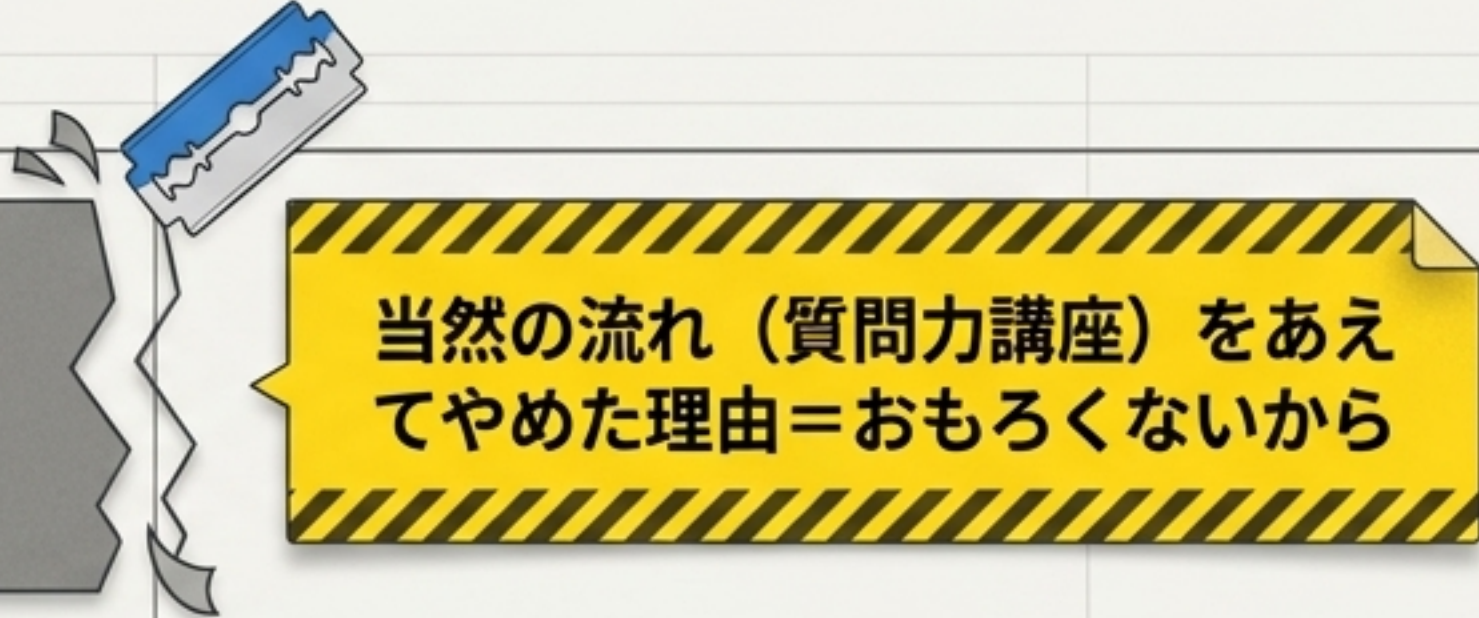
過去の延長線上で「できること」を選ぶか、全くの異業種で「やりたいこと」を選ぶか。

この葛藤が、私たちの足を止める最大の要因です。



ケーススタディ：破壊と再構築のタイムライン

警察官18年（職務質問2万5000人以上） &
音楽大学卒業



当然の流れ（質問力講座）をあえてやめた理由＝おもろくないから

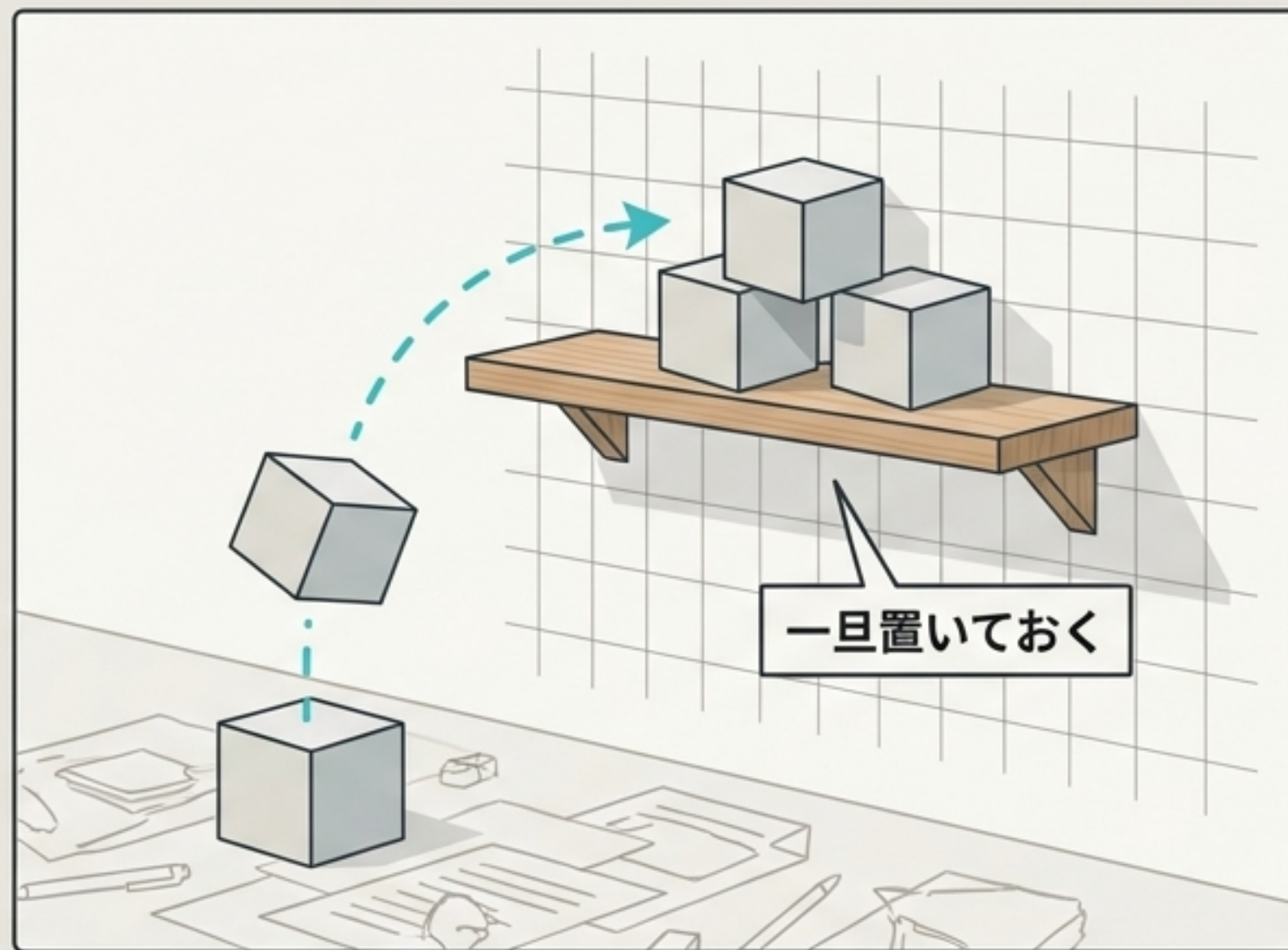
動画クリエイター / ドキュメンタリープロデューサー

過去の圧倒的な実績を活かした論理的な起業パスを、「面白くない」という直感だけで手放す。過去の延長線に縛られない決断の形。

「手放す」のではなく「一旦置いておく」

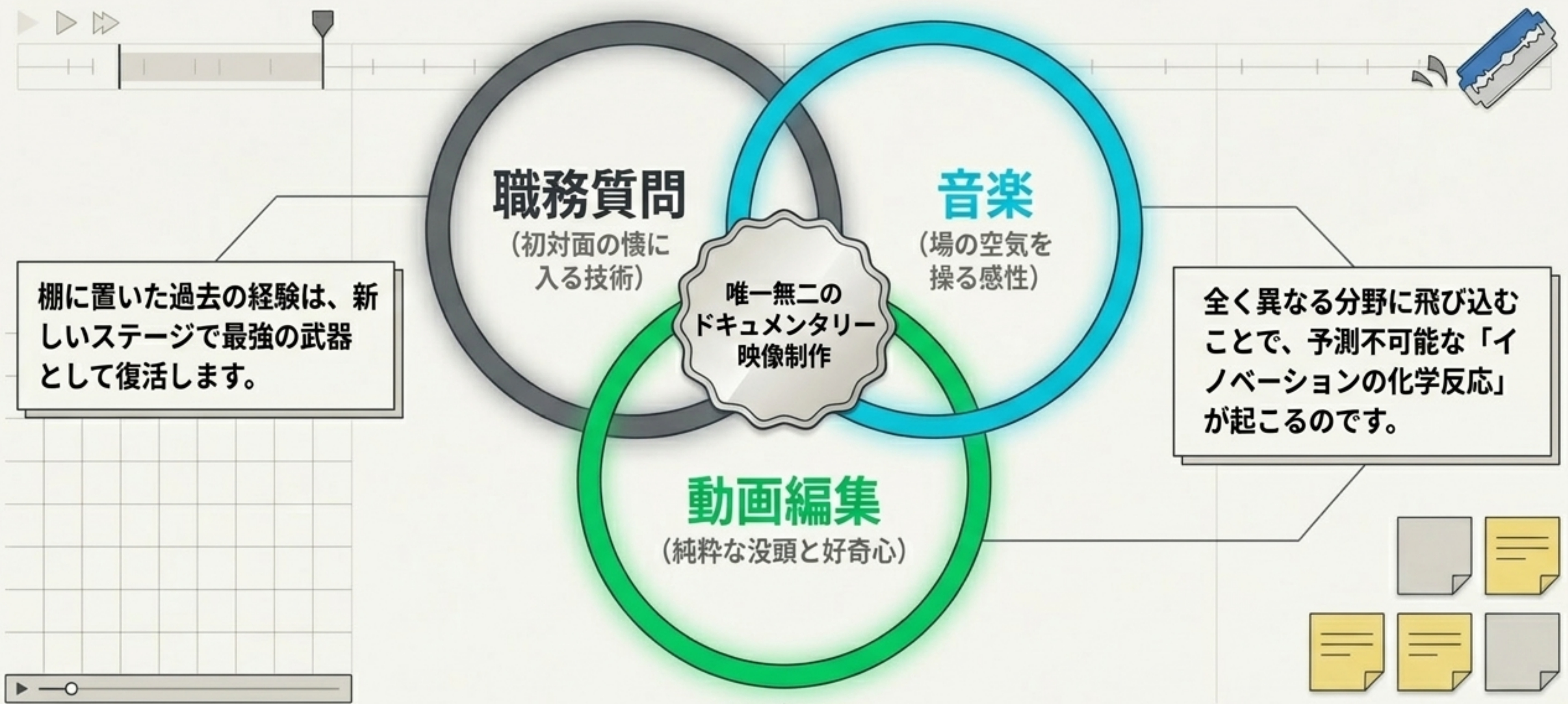


無理に繋げようとするから苦しくなる



過去の経験やスキルは消えません。捨てるのではなく、脳内の「棚 (Shelf)」に一旦移動させる。
そして、目の前の新しい「興味」に100%のスペースと集中力を注ぐ。

没頭した先で、過去の経験は勝手に結びつく



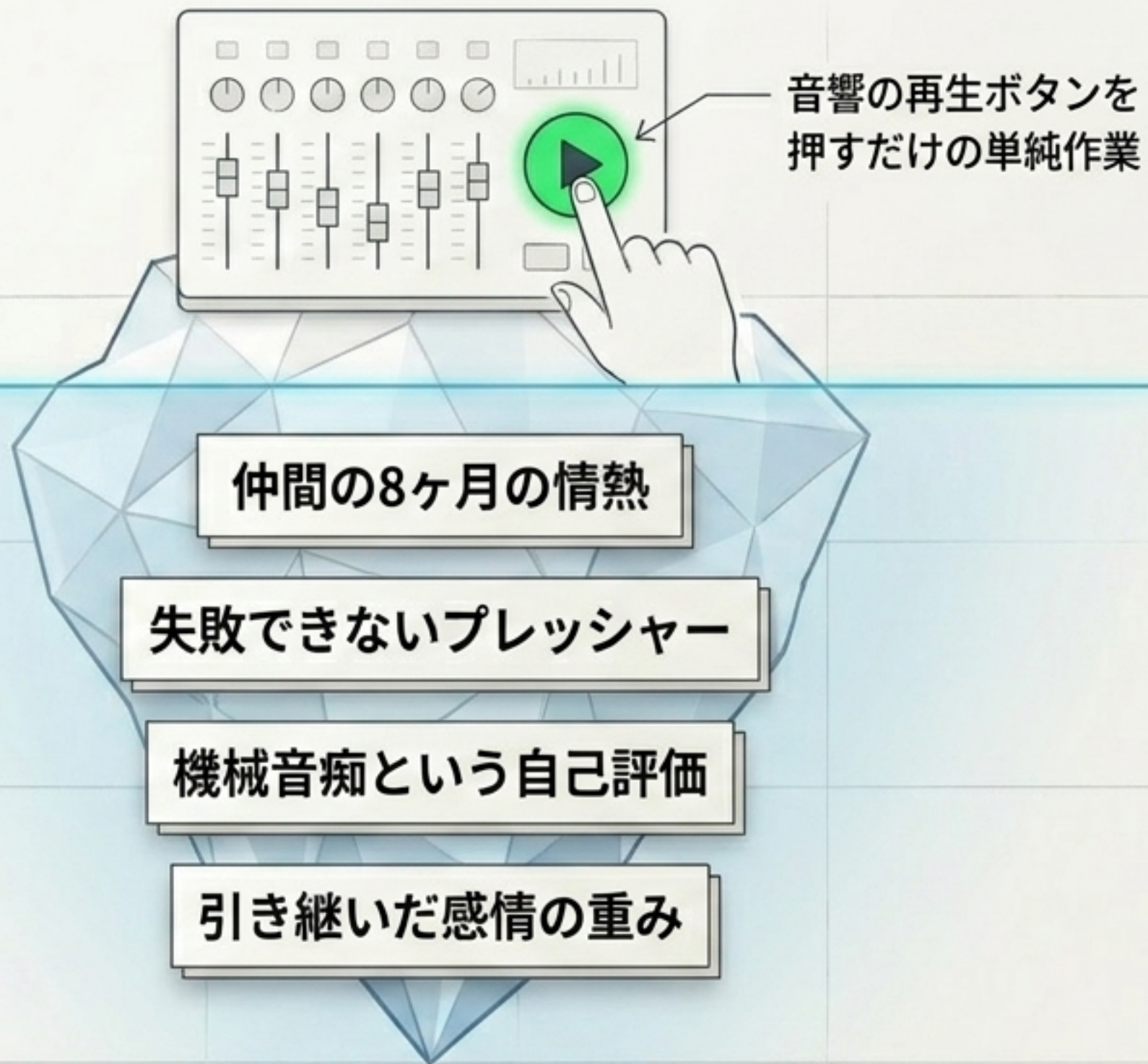
究極のコンパスは「おもしろい」かどうか



頭で考えた「やるべきこと」では、新陳代謝は起きません。

寝食を忘れるほどの純粋な好奇心（新しいおもちゃを手にした子供のような状態）こそが、恐怖を凌駕する最大の推進力となります。

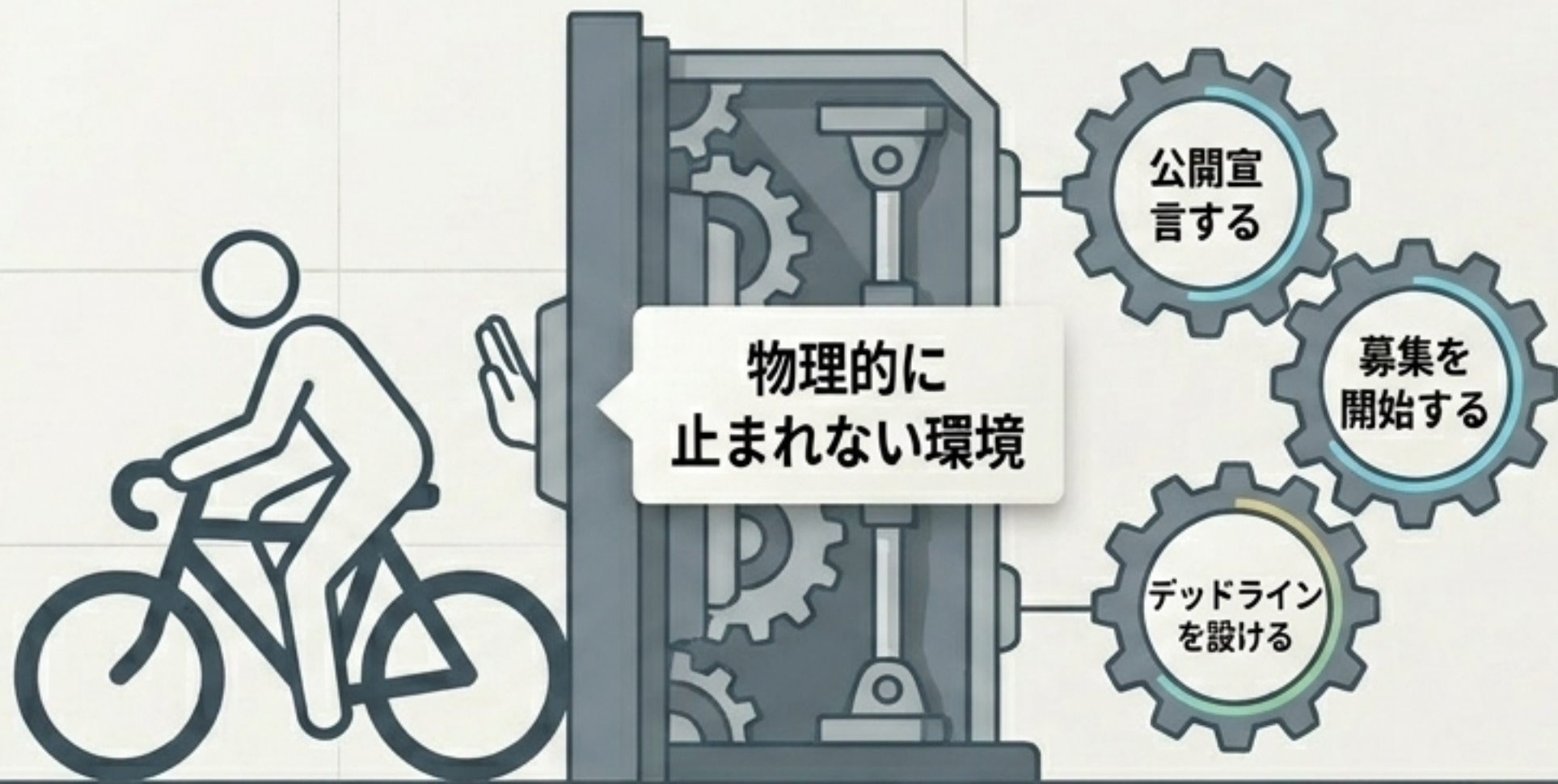
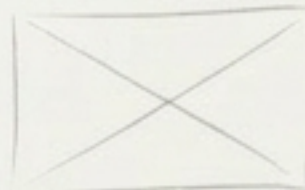
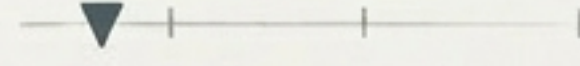
挑戦の恐怖の解剖学



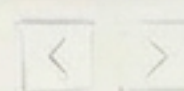
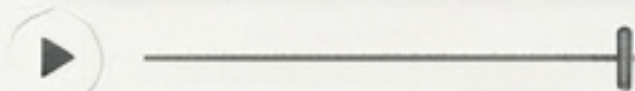
恐怖の正体は「作業の難易度」ではありません。

「誰かの大切なものに影響をを及ぼす」「失敗できない」という、目に見えない感情の重さが恐怖を生み出します。

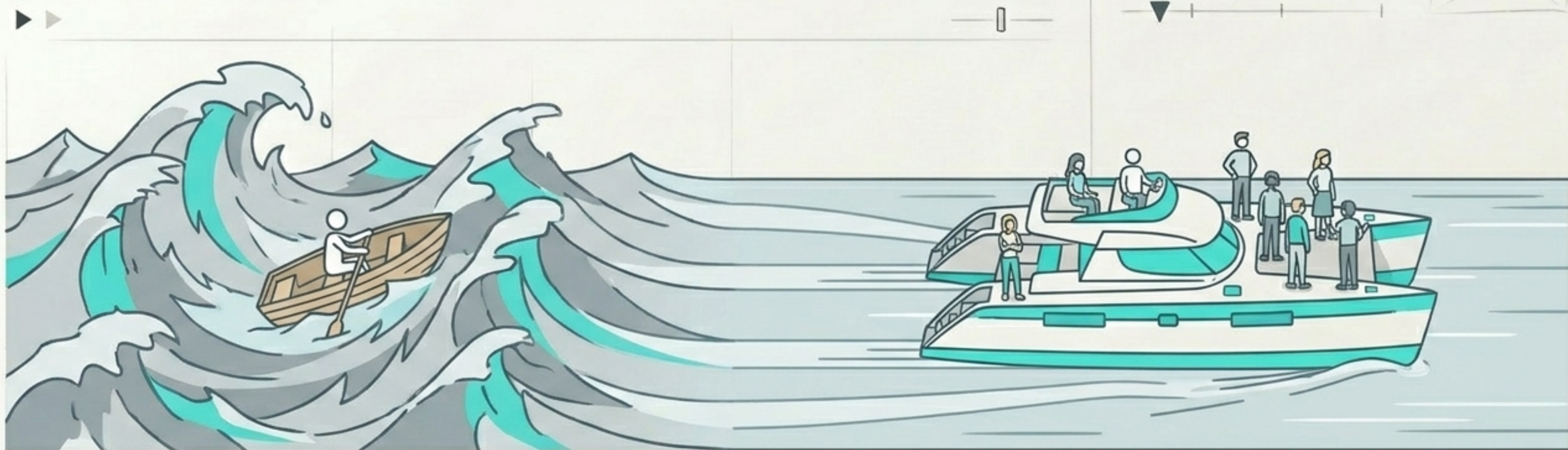
怖くても強制的に進む「後ろ盾」を作る



恐怖を完全に消し去ることは不可能です。だからこそ、「公開宣言する」といった環境を自ら作ります。漕ぎ出した自転車のように、物理的に「止まらない環境」を設計することが、前に進む秘訣です。



恐怖を分散する「頼る」システム



一人で抱える恐怖

チームで分散する恐怖

「一人じゃない」という心の安定が、コンフォートゾーンを飛び出す最大の勇気になります。怖い感情を共有できる人、サポートしてくれる仲間を迎え入れるだけで、負担は劇的に軽くなります。

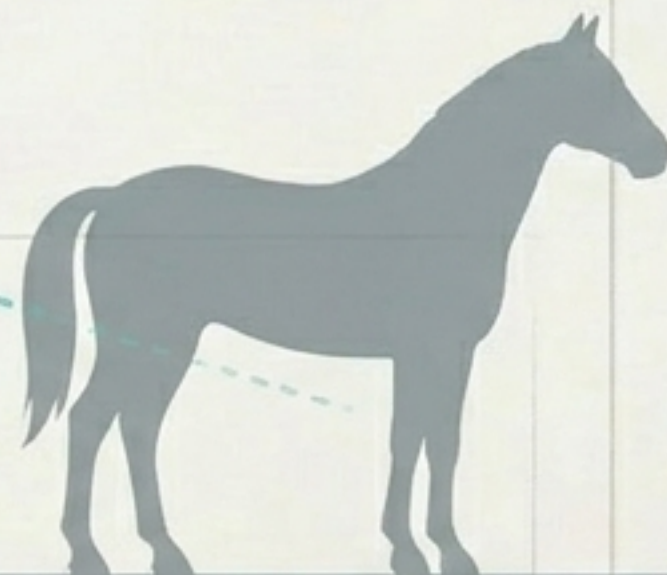
心が100%向いていないと、現実は動かない

頭で考える

(半分片手間の指示)



雑念 / ロジック



心・感情のベクトルが
100%真っ直ぐに向き合う





馬を使った研修のメタファー

頭で考えた「片手間の指示」
では、馬は一步も動きません。

自分の心が対象に対して
100%真っ直ぐに向き合った時、
初めて事態は進展します。

アプローチのパラダイムシフト

比較軸	【頭脳 (Head) アプローチ】 	【感情 (Heart) アプローチ】 
起点	既存の強みから逆算	直感と好奇心
過去の扱い方	必死に繋げようとする	一旦横に置いておく
行動の理由	「すべき」「正解だから」	「おもしろい」「広めたい」
向いている状況	予測可能な作業・現状維持	イノベーション・未踏領域への挑戦

「やるべきこと」に人生を毒されない。
直感を信じ、心のベクトルに従うアプローチへ。

怖くても進むための「設計図」

1. 過去は捨てずに
「一旦横に置く」

2. 純粹な「おもしろい」に
没頭する

3. デッドラインと仲間で
「システム」化する

4. 頭ではなく
「心」を100%燃やす

「迷ったら、面白いと思うことだけをやっていい。
そしたらどうにかなる。」